**＜様式第１号＞**

**記載例**

**事　業　計　画　書**

**申請機関名：　○○○専門学校**

１　特別授業の実施計画

|  |  |
| --- | --- |
| No. | １  　※複数の授業で申請する場合は、授業ごとに作成してください。 |
| 学科・コース等名 | ○○○○科 |
| 授業の名称 | 例１：○○を使用した○○実習  例２：○○〈講師名〉による特別授業 |
| 実施期間 | 例１：令和５年○月○日（　）○時○分から○時○分  例２：令和５年○月○日（　）、○月○日（　）の２日間 |
| 実施概要 | ※「概要」、「学習の目的」、「カリキュラム」について、内容を簡潔に記載してください。  ■概要  例１：特別講師（所属・氏名）による○○○○〈指導・学習の内容を記載〉に関する特別授業として、○○○○〈具体的な技術・道具名などを記載〉を用いた○○○○〈実習、実技指導、技術解説などの実施に内容を記載）を行う。  例２：○○○○〈機材、施設の名称を記載〉を活用した○○○○〈指導・学習の内容を記載〉に関する特別授業として、○○○○〈実習や実技指導の名称などを記載）を行う。  ■学習の目的（テーマ）  例１：○○〈業界の名称など〉の第一線で活躍する講師から、現場で必要とされる○○〈技術・技法などの名称〉の習得のポイントや、○○〈技術・技法などの名称〉に当たっての心構え、判断基準などの解説を受け、その活用方法を学ぶ。  例２：顧客のニーズに合わせた○○〈具体的な技術・道具名など〉の実践的な使用方法を身に付ける。  例３：実際の現場で行われている環境での作業経験ができるよう、○○〈機材、施設の名称など〉を使用した実践力の習得を目指す。  ■カリキュラム  例：授業カリキュラムは、別添資料の「○○〈具体的な実習名など〉」のとおり。 |
| 講師概要 | ※「所属」、「役職」、「氏名」、」「実績等」について、内容を簡潔に記載してください。  ※「実績等」は必ず記載してください。  講師が紹介された記事やサイトがあれば提出してください。  　※補助対象外となる常勤の講師等が対応する場合は、「常勤講師で対応」などと記載してください。  ■所　属：○○○○株式会社  ■役　職：○○○○  ■氏　名：○○○○  ■実績等：○○大会で△△△賞受賞  ○○で講義を開催  ○○協議会の審査員長を務める  ○○年から○○アドバイザーに就任 |
| 従前の授業概要 | ※　「外部講師の活用」の有無、「指導の内容」、「使用する機材や材料」、「課題」について、特別授業の内容と比較できるよう具体的に記載してください。  ■外部講師の活用  　例１：無し（常勤の教員が対応）  　　例２：有り（市内の事業所 （株）○○に依頼）  ■指導の内容  例１：○○〈道具名や技術・技法名〉の基礎的な使用方法  例２：実際の現場の一部を模擬的に再現した○○〈技術・技法名〉の演習  　　例３：○○〈道具名や技術・技法名〉を用いた○○〈作品や成果物の名称〉の作成  ■使用する機材や材料  　　例１：基礎的な○○〈道具名や材料名〉のみを使用  　　例２：校内の実習室を使用  　　例３：○○〈道具名や材料名〉を４人１組で使用  ■課題  　　例１：より実践的な授業を行うには、さらに○○〈道具名や技術・技法名〉を使用（習得）する必要がある。  　　例２：実際の現場（屋外・施設）に近い環境での実習が十分にできていない。  　　例３：機材を複数人で利用しているため、個人の十分な実習時間が確保できていない。  　　例４：日々変化する業界のトレンドを捉えた施術方法や知識を取り入れる必要がある。 |
| 授業のポイント及び  従前の授業における  課題への対応 | ※　記載いただいた内容は、とちぎジョブカレ！サイトへの掲載時にも活用しますので、高校生など一般の方が見た時にも分かりやすいよう、特別授業を受講することで学べる技術・技法・機器・知識などの具体的な名称や特徴、他との違いについて、「従前の授業概要」の記載内容と比較しながら分かりやすく記載してください。  ※　外部講師を活用する場合には、講師の経歴や技術、実績などに基づき、「この講師だから学べること」を具体的に記載してください。  例１：外部講師を活用した実習の例  ■概要  通常の授業でも学習している○○〈技術・技法名など〉の実施方法について、様々な顧客のニーズに対応できるよう、○○〈業界や企業名など〉で全国的に活躍されている現役の外部講師を招き、実際の現場での取り入れ方や注意事項を学ぶとともに、その応用技術である○○〈技術・技法名など〉の技法を習得する。  　　　■○○〈技術・技法名など〉の概要・説明  ○○とは、○○○○時に使用する技法の一つで、○○を○○する方法。その作業は、○○、○○、○○の３つの工程から成る。（詳細については別添を参照）  中でも○○の作業は、仕上がりに大きく影響することから、作業着手前に顧客と十分なコミュニケーションを図り、要望を十分に聞き取った上で実施する必要がある。  また、○○の作業は、○○や○○など、基礎的な技術から展開する幅広いバリエーションがあるため、多くの知識と経験が必要とされる。  　　　■特別授業の内容、実演や解説のポイント  　　　　日本有数の企業の第一線で活躍している現役講師から、○○作業時における顧客の具体的な要望を引き出すコミュニケーションスキルについて、グループワークを通して学ぶ  ○○作業における○○〈技術・技法名など〉の応用技術の実演と解説  例２：外部講師を活用した講演会の例１  ■概要  ○○○○〈技術・技能名など〉の実習については、これまで常勤講師が行っていたが、世界大会などへの出場経験もあるプロの技術を間近に体験させ、世界レベルの技術習得に向けて、○○〈技術・技法名など〉の基礎技術の練度を高める重要性を学ぶことで、さらなる技術の定着が期待できる。  特別授業においては、現役の○○講師による○○〈技術・技法名など〉実演（又は写真・動画による解説など）を行うとともに、現場での経験に基づく基礎技術の応用や心構えなどを説明する。    ■○○〈技術・技法名など〉の概要・説明  ○○とは、○○○○時に使用する技法で、○○を○○する時に行うもの。○○、○○、○○など、他の応用技術に展開する重要な基礎技術である。単純な作業の組合せあるが、数ミリ単位での精度が求められ、さらに長時間の作業を行うことから、仕上がりに大きく影響する技術である。（詳細については別添を参照）    ■特別授業の内容、実演や解説のポイント  長年の実践経験をもつ講師による講演会を開催  ○○〈技術・技法名など〉のデモンストレーションと解説  技術の練度を高めるために必要なの○○〈技術・技法名など〉の練習方法に関する実習  作業時に集中力を維持するためのポイントの説明  例３：外部講師を活用した講演会の例２  ■概要  ○○○○〈技術・技能名など〉の学習については、これまで常勤講師による授業を行っていたが、○○業界のトレンドは日々変化しており、優れた○○〈作品や成果物など〉を作り出していくためには、○○○○〈技術・技能名など〉などの基本技法だけでなく、時代に合わせたスキルを身に付ける必要がある。  そこで、業界の第一線で活躍する現役の○○講師が経験から培った技術の中から、顧客のニーズに応えるための○○〈作品や成果物など〉のデザインや○○〈技術名など〉に関する最新の知識、施術方法について学ぶ。    ■○○〈技術・技法名など〉の概要・説明  ○○〈作品や成果物など〉の制作に必要な○○○○〈技術・技能名など〉は、○○を○○する基本技法の一つ。  応用の範囲が幅広く、業界で活躍していくためには、精度だけでなくオリジナリティや状況に合わせた柔軟性が求められる。（詳細については別添を参照）  　　■特別授業の内容、実演や解説のポイント  ○○の業界でプロとして独立し、長年の第一線で活躍する講師の講演会を開催  デザイン力を高めるための○○〈技術・技法名など〉の練習方法を実演（又は写真・動画による解説など）  ○○〈技術・技法名など〉などに関する最新の業界情報についての解説  例４：より実践的な環境を整備して行う例  ■概要  これまで、○○○○〈技術・技能名など〉の授業は、実習室において模擬ブースを設置し、常勤講師が行っていた。  実際の現場（屋外・施設）では、日照や風、温度などの天候や騒音、建物の影響など様々環境に左右されることがあることから、○○（施設名など）を実習場として借用し、実際の現場に近い環境で実習を行うことで、○○〈技術・技法名など〉に関するより実践的な判断能力を養う。    ■○○〈技術・技法名など〉の概要・説明  ○○〈技術・技法名など〉の実習の工程は、まず○○し、次に○○を行い、○○をして仕上げていく。  従来の授業では、別添のような校内の既設ブースで作業を行う。  　　　　（詳細については別添を参照）  　　　■特別授業の内容、実演や解説のポイント  外部講師は活用しないが、○○（施設名など）を実習場に見立てて、より実際の現場に近い環境を再現した模擬実習を開催  通常の授業とは異なる視点（道具や器具の配置、天候等の影響、突発的なアクシデントに対する危機管理など）からの想像力・判断力を養う  例５：授業内容の充実を行う例  ■概要  ○○〈作品や成果物など〉の作成の実習については、これまでも常勤の講師により実施してきたが、機材を複数人で利用しているため、個人の十分な実習時間が確保できていない状況であった。そのため、不足分の○○〈道具名や材料名〉を追加で購入（又はリース）し、実習グループをより少人数（６人→３人）にすることで、より密度の高い実習が可能になり、確実な○○〈技術・技法名など〉の習得につなげる。  　　　■○○〈技術・技法名など〉の概要・説明  ○○〈作品や成果物など〉の実習の工程は、まず○○し、次に○○を行い、○○をして仕上げていく。  二つ目の工程においては、○○〈道具名や材料名〉を使用する必要があるが、現在は○個しかないため、同数の○グループに分かれて作業している。（工程の詳細については別添を参照）    ■特別授業の内容、実演や解説のポイント  外部講師は活用しないが、○○〈道具名や材料名〉の数を充実させることで、個人の十分な実習時間を確保するとともに、実習時間が短縮されることで、必要な技術指導や振り返りの時間が確保でき、確実な○○〈技術・技法名など〉の習得につなげる。 |
| 実施により  期待される効果 | ※　上記の「実施概要」及び「授業のポイント等」を踏まえ、どのような技術が学べると良いかなど、技術面での効果を中心に３つ程度記載してください。  例１：○○〈作品や成果物など〉に必要となる○○〈技術・技法名など〉の技術向上  例２：○○〈技術・技法名など〉の応用技術である○○〈技術・技法名など〉の技法の習得  例３：○○〈技術・技法名など〉などに関する新たな知識の習得  例４：第一線で活躍するプロの技術を間近に体験することで、○○〈技術・技法名など〉の基礎技術の練度を高める重要性を学ぶ。  例５：第一線で活躍する講師から、業界のトレンドを捉えた○○〈技術・技法名など〉の施術方法や○○〈技術名など〉に関する最新の知識を習得できる。  例６：実際の現場に近い体験をすることで、顧客のニーズを捉えた○○〈技術・技法名など〉の対応方法を身に付ける。  例７：実際の現場を想定した環境で実習することで、実践的な○○〈技術・技法名など〉の判断能力を養う。  例８：少人数単位で実習することで、効率よく授業を実施し、確実な○○〈技術・技法名など〉の習得につながる。 |
| 実施に要する経費 | 別添「収支予算書」のとおり |

２　従前授業と特別授業の比較

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項　目 | 従前の授業 | 特別授業 |
| 実施場所 | － | 自校 |
| 実施回数 | － | １回 |
| 講　師　名 | － | ○○　○○ 氏 |
| 講師人数 | － | １名 |
| 対象生徒数 | － | ２５名 |
| そ　の　他 | ※従前実施していた授業を拡充する場合、拡充内容が比較できる項目を記入してください。 |  |

※事業計画の内容がわかる詳細な資料を添付すること。（添付したものにチェックを記入）

添付書類

☑　講師プロフィール（外部講師を補助対象経費とする場合のみ）

☑　特別授業のスケジュール（事前の講師打合せ、準備を含む）

☑　授業の指導内容が分かるもの、カリキュラム、シラバス（指導計画）

☑　材料の詳細が分かるもの、見積書など（材料を補助対象経費として購入する場合のみ）

☑　リース機器等の説明資料、見積書など（機器等を補助対象経費とする場合のみ）

☑　従前から実施している授業内容、経費が確認できる資料（従前の授業を拡充して特別授業を実施する場合のみ）

※栃木県ホームページへの実施事業内容（授業概要、講師名）の掲載の可否（チェックを記入）

☑　実施事業について事業終了後に栃木県のホームページに掲載されることに異議ありません。